



岳南朝日新聞社
〒418-0033
富士宮市野中東町46-1

富士宮高校会議所 耕作放棄地のほ場視察

夏野菜の生産に向け

富士宮高校会議所は、これまで製造したマスマス元肥(げんぴ)を使い、耕作放棄地をよみがえらせる活動として、富士宮市粟倉と同市外神の耕作放棄地を訪れて、SDGs実践マスマス元肥(げんぴ)の効果と今後展開を計画するひまわりとカボチャ等の栽培を検討した。

昨年、同会議所は、ニジマスの残渣(さ)と朝霧高原の牛糞を用いて製造したマスマス元肥の普及と耕作放棄地の回復を目的としたプロジェクトを開始。野菜栽培のほか、収穫した野菜を素材としたスイーツ等の菓子づくりや、SDGsコンテストを開いてSDGsの普及を図った。

粟倉の耕作放棄地を訪れた6人のメンバーは、整地後にマスマス元肥を施して夏野菜や秋野菜を生産するほ場



耕作放棄地対策に取り組むメンバーら

を視察した。これまで「多くに生産者からは「多く収穫できておもしろい」と言われている。視察でも「大変よい野菜が収穫できた」と

「これまできた」などの声が寄せられていた。視察でも「大変よい野菜が収穫できた」という感想を聞くことができた。

続いて外神のほ場で

は、今年度計画の一つである、とがみえん児童クラブに通う小学生たちとのコラボ活動について、ヒマワリの栽培と迷路、油作り、カボチャ栽培などを検討した。

会員は「今年度もマスマス元肥を使い、地域の持続可能な社会創りに活動に取り組んでいく」と意欲を見せた。